

広島県緑化センター 8月の開花マップ



A オタカラコウ



B カンレンボク



C キガンピ



D キキョウ



E コマツナギ



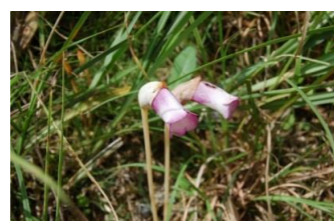
F シャシヤンボ



G セイヨウニンジンボク



H タラノキ



I ナンバンギセル



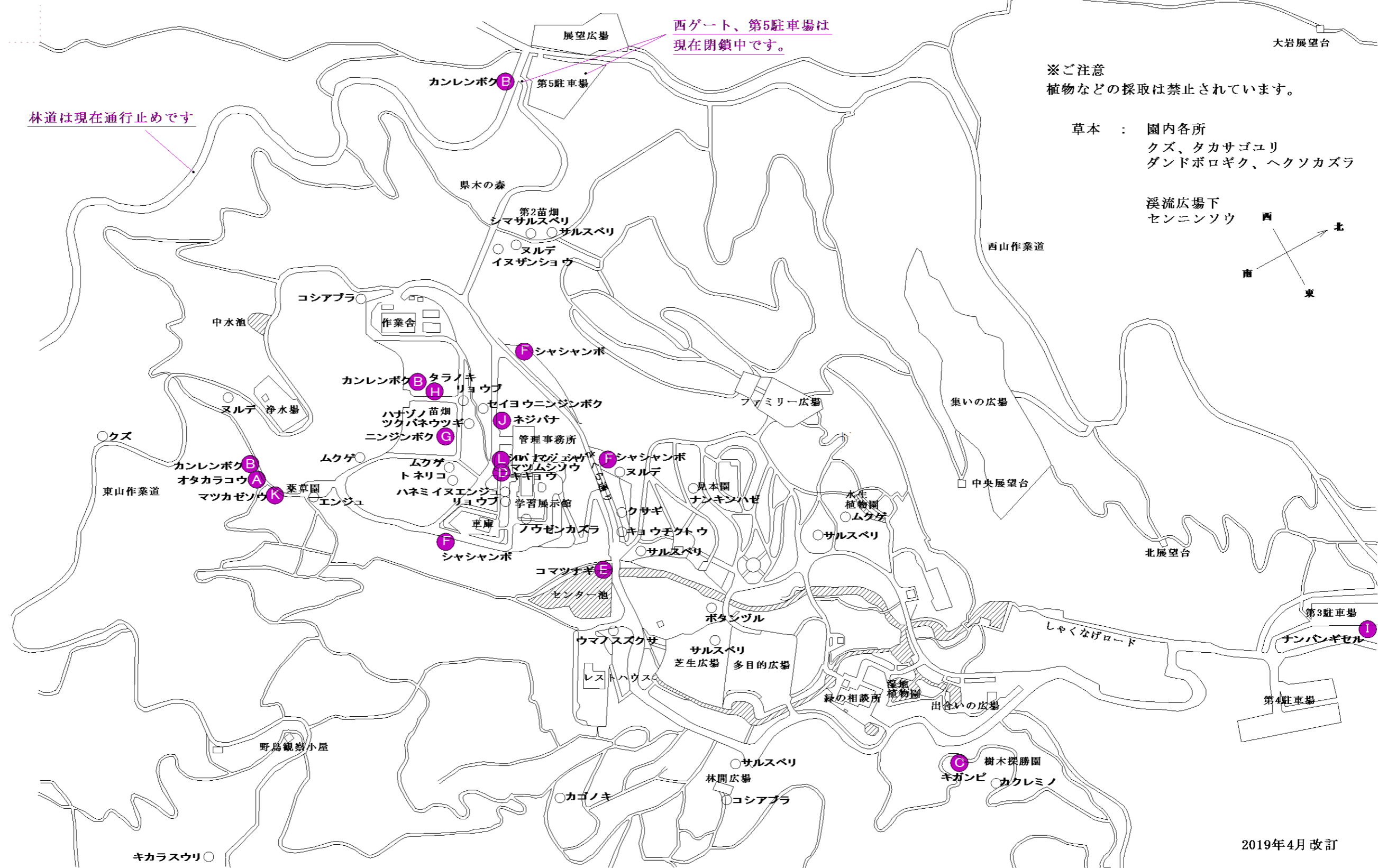
J ネジバナ



K マツカゼソウ



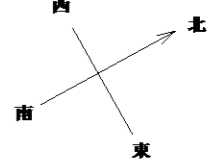
L マツムシソウ



※ご注意
植物などの採取は禁止されています。

草本 : 園内各所
クズ、タカサゴユリ
ダンドボロギク、ヘクソカズラ

溪流広場下
センニンソウ



2019年4月改訂

ここに掲載のない植物写真や、植物の詳しい解説は
ホームページをご覧ください。

<https://ryokka-c.jp/guide/>



| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|------------|---------|---------|-------------|-----------------|-------------|---|----|
| ムクゲ | アオイ | フヨウ | ハチス | 見本園 | 6/25 | 各地で栽培され植栽されおり、高さ3～4m。花は8～9月、本年枝の葉脈に花をつける。花卉の色は様々で一重・八重咲き等がある。韓国の国花。 | |
| ヘクソカズラ | アカネ | ヘクソカズラ | ヤイトバナ | 園内 | 7/24 | 林縁や藪などに生える多年生つる草。8～9月に筒状で、内側が深紅色の花を咲かせる。全体に悪臭があることから名がついた。別名は花の中心が赤く、お灸(ヤイト)の跡に似ることによる。 | |
| カクレミノ | ウコギ | カクレミノ | | 樹木探勝園 | 8/10 | 海岸に近い照葉樹林内に生育し、高さ3～8m。本年枝は緑色になる。花は雌雄同株、7～8月に淡黄緑色の花をつける。果実は10～11月に紫黒色に熟す。ヒヨドリが果実を好んで食べる。 | |
| コシアブラ | ウコギ | コシアブラ | ゴンゼツノキ・ゴンゼツ | 林間広場 | | 山地の林内に生育し、高さ5～20m。花は8～9月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に紫黒色に熟す。若い葉は香りがあるやわらかく、山菜として食用されている。 | |
| タラノキ | ウコギ | タラノキ | タランボ | 苗畑 | 8/18 | 花は8～9月、幹の先端に淡緑白色の小さな花を多数つける。樹皮には刺が多い。新芽はタラの芽として山菜人気があるため、野生のタラノキは減少している。保護のためにも芽の収穫は1回だけにとどめ、幹の伐採は絶対慎みたい。 | |
| ウマノスズクサ | ウマノスズクサ | ウマノスズクサ | | レストハウス入口坂 | 7/15 | 花は横向き、萼はラップ状で長さ3～5cm、基部は球形。体内に有毒成分があり、この草を食草としているジャコウアゲハは、毒のあるチョウとして鳥に襲われることが少ない。和名は果実が馬の首にかける鈴に似ていることによる。 | |
| キカラスウリ | ウリ | カラスウリ | | 東山作業路 | 8/2 | 多年生のツル草。花は雌雄別株、日没とともに開花し、5裂した白い花冠の先は細かく糸状に裂け、レース状に広がる。果実は球状、黄色で約10cm。根のでんぷんからあせもに効く天花粉をつくる。 | |
| ヌルデ | ウルシ | ヌルデ | フシノキ | さくら通り法面下他 | 8/25 | 花は雌雄別株、8～9月に白色の小さな花を円錐状に多数つける。果実は10～11月に黄赤色に熟す。幹を傷つけると白色の樹液がしみだし、器具などに塗ったことからヌルデといわれる。葉にできた虫えいは五倍子と呼ばれ、薬用や染料などに利用される。 | |
| キキョウ | キキョウ | キキョウ | | 管理事務所前 | 7/19 | 日当たりのよい山地などに生え、高さ50～100cmの多年草。花は7～9月、茎の先に直径4～5cmの鐘形の青紫色の花が数個咲く。秋の七草の朝貌はキキョウのことだと言われる。 | |
| オタカラコウ | キク | メタカラコウ | | 薬草園奥 | 8/27 | 深山の沢沿いなどに生息し、高さ1～2mになる大形の多年草。夏から秋にかけて、黄色の花を総状につける。 | |
| ダンドボロギク | キク | タケダグサ | | 園内 | 7/17 | 北米原産の帰化植物、高さ50～150cmの1年草。伐採跡や崩落地で真っ先に育ち、群落をつくる。枝分かれした茎の上部に多数の筒型で2～3cmの頭花をつける。冠毛は白く、風に乗って飛び散る。名は冠毛をボロに例えたことによる。 | |
| キョウチクトウ | キョウチクトウ | キョウチクトウ | | センター池下 | 6/14 | インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月に枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。 | |
| センニンソウ | キンポウゲ | センニンソウ | | 溪流路広場下 | 7/19 | 日当たりのよい山野や道端などに生える木質のつる性植物。葉の腋に白い花を多数つける。葉は3～7枚の小葉からなる羽状複葉。有毒植物。 | |
| ボタンヅル | キンポウゲ | センニンソウ | | 芝生広場横 | 8/3 | 日当たりのよい山野に生える落葉つる植物。白い花が群がってつき、4個のがく片が平開。葉は3出複葉で対生。名前は葉が牡丹に似ることによる。 | |
| カゴノキ | クスノキ | ハマビワ | コガノキ・カゴガシ | 林間広場上、樹木探勝園他 | 8/12 | 暖地に生え、高さ22m、直径1.5mになる。樹皮は灰黒色で、まだらに剥がれて白い鹿の子模様になる。花は雌雄別株。7～8月、無柄の散形花序に淡黄色の花を数個つける。果実は倒卵状球形の液果で、翌年7～8月に紅色に熟す。 | |
| ツルマンリョウ | サクラソウ | ツルマンリョウ | ツルアカミノキ | 立石山下、長者山への散策路沿い | 8/13 | 高さ0.5～1mの常緑小低木。花は雌雄別株で7～8月に白色～緑白色の花が咲く。果実は翌年の9月頃赤く熟す。珍しい植物で奈良や山口の自生地は国の天然記念物に指定。広島県では絶滅危惧Ⅰ類に指定。 | |
| クサギ | シソ | クサギ | | 見本園スロープ沿い他 | 7/31 | 日当たりのよい山野の林縁などに生育し、高さ4～8m。花は7月下旬～9月に枝先や上部の葉腋から集散花序を出し、芳香のある花を多数つける。果実は6～7mmの球形で10～11月に熟し、光沢のある藍色になる。 | |
| セイヨウニンジンボク | シソ | ハマゴウ | | 苗畑 | 7/12 | 南欧原産の落葉低木。花は両性、7～8月に開花する。枝先に円錐花序を出し、淡紫色の花を密に多数つける。果実は球形の核果。類似種のニンジンボクは、小葉が3～5枚で粗い鋸歯が目立ち、花は淡青紫色でまばらにつく。 | |
| ニンジンボク | シソ | ハマゴウ | | 苗畑 | 未確認 | 中国原産の落葉低木。葉は掌状複葉で対生、小葉は楕円形で粗い鋸歯が少しある。花は両性、7～8月枝先に円錐花序を出し、淡青紫色でまばらにつく。果実は薬用に利用される。類似種のセイヨウニンジンボクは、小葉が5～7枚で細長い。 | |
| キガンピ | ジンチョウゲ | ガンピ | キコガンピ | 樹木探勝園 | 7/26 | 本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布し、山地の日あたりのよい林縁や岩場に生息する。花は7～9月、枝先に黄白色の花を数～10個つける。果実は乾いた核果で、核は長さ3cmほどの紡錘形。樹皮は和紙の原料にされる。 | |

| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|-------------|---------|---------|---------------|--------------------|-------------|--|----|
| ハナゾノツクバネウツギ | スイカズラ | ツクバネウツギ | アベリアハナツクバネウツギ | 管理事務所前法面他 | 6/29 | よく分枝して茂り、高さ2mほど。花は6～10月、枝先や葉脈から円錐花序をだして、1.5～2cmの漏斗状の花を多数つける。花は白色でふつうやや淡紅色を帯びる。花後に萼片が残りよく目立つ。結実はしない。 | |
| マツムシソウ | スイカズラ | マツムシソウ | | 管理事務所 駐車場前法面 | 7/22 | 山地の草原に生える2年草。根生葉はロゼット状で冬を越す。花は紫色、直径4cmほど。上向きに咲く。縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きい。 | |
| シャシャンボ | ツツジ | スノキ | サシブノキ・ワクラハ | さくら通り、車庫横法面 | 7/27 | 花は5～7月、3～8cmの総状花序を出し白い花を下向きにつける。果実は9～10月に紫黒色に熟し、甘酸っぱくて食べられる。名前は小さな実が多数つく様子を小さい坊や「小小ん坊」と呼んだものが転訛したと言われる。 | |
| ナンキンハゼ | トウダイグサ | ナンキンハゼ | | 見本園 | 7/10 | 中国原産の落葉高木で江戸時代に渡来。花は7月、枝先に黄色の小さな花を多数つける。秋の紅葉も鮮やか。種子の表面はロウ質に包まれていて、このロウを精製しロウソクや灯用に用いられた。 | |
| カンレンボク | ミズキ | カンレンボク | キジュ | 苗畑 | 8/18 | 中国南部原産。花は雌雄同株、7～8月に枝先に球形の花序を3～5個つけ、雌花序が上で雄花序が下になる。果実は10～11月にバナナ形の果実が球状に集まる。果実や根にカンプトテンシンというアルカロイドを含有、制ガン作用が認められている。 | |
| ノウゼンカズラ | ノウゼンカズラ | ノウゼンカズラ | | 学習展示館 | 6/26 | 中国原産で平安時代に渡来したと言われる落葉つる性木本。付着根を出して樹木や壁面に這い上がる。花は7～9月に枝先から垂れ下がった円錐花序に橙赤色の大きな花をつける。果実はほとんど結実しない。 | |
| ナンバンギセル | ハマウツボ | ナンバンギセル | オモイグサ | 第3駐車場、西ゲート向 | 8/29 | 1年生の寄生植物で、ススキやミョウガなどの根に寄生。葉の腋から花柄を直立し花をつける。和名は南蛮煙管で花の形によるもの。別名のオモイグサは万葉集の歌にもある。 | |
| シロバナマンジュシャゲ | ヒガンバナ | ヒガンバナ | | 管理事務所前 | 8/29 | 人里に近いところに群生する多年草。昔、中国から渡来したものが広がったといわれる。9月にりん茎から30～50cmの花茎をだし、花を輪状につけ、花後に線形の葉を広げる。本種の花は白色で、和名は彼岸のころ咲くのでつけられた。 | |
| エンジュ | マメ | エンジュ | | 薬草園入口 | 7/21 | 中国原産で庭木や街路樹として植栽され、高さ20mほど。樹皮は、灰褐色で縦に割れ目が入り、内皮は黄色で臭気がある。花は7～8月、枝先に約30cmの円錐花序をだし、黄白色の蝶形花をつける。果実は豆果で長さ4～7cmで数珠状にくびれる。 | |
| クズ | マメ | クズ | | 園内 | 7/16 | 山野で普通に見られる大型のつる性草本。葉は3小葉。7～9月に紅紫色の蝶形花が穂状に集まって咲く。根にでんぷんを含み、これを葛粉にして食用、薬用に供する。和名は奈良県の国栖(くず)が葛粉の産地であったことによる。 | |
| コマツナギ | マメ | コマツナギ | | センター池ほとり | 8/19 | 草地や川の土手、道端などの日当たりがよく、やや乾いたところに群生する。高さ40～80cmの草本状の小低木。葉は奇数羽状複葉。小葉は7～13個ある。葉腋に長さ4～10cmの総状の花序をだし、淡紅紫色の花をやや密につける。 | |
| ハネミイヌエンジュ | マメ | イヌエンジュ | | 学習展示館裏法面 | 8/2 | 花は7～8月、枝先に総状花序を数個出し、長さ7～10mmの白い蝶形花を多数つける。旗弁は後方に強く反り返り、がくに接する。枝は折るとソラマメに似た臭気をする。 | |
| イヌザンショウ | ミカン | サンショウ | | 第2苗畑、溪流路 | 7/26 | 林縁や道端などに生育、高さ3m。花は雌雄別株、7～8月に枝先に3～8cmの散房花序をだし、黄緑色の小さな花を密につける。果実は3個に分かれ、9～10月に熟す。サンショウは刺が対生するが、本種は葉や果実に香りが少ないことで区別できる。 | |
| マツカゼソウ | ミカン | マツカゼソウ | | 東山作業路、薬草園 | 7/26 | 暖地の林縁に多く、高さ50～80cmの多年草。枝先に花序を出し、白色の小さな花を多数つける。葉には油点があり、もむとかんきつ類のような香りがする。名は秋風に揺れる草の姿から風流人が名づけたとされる。 | |
| サルスベリ | ミソハギ | サルスベリ | ヒヤクジツコウ | 和風庭園他 | 8/4 | 中国南部原産で江戸時代以前に渡来、高さは大きいもので10mになる。花は7～10月に百日近くわたって咲き続ける。花色はピンク・白・赤などがある。名前の由来は、木肌がなめらかで、猿もすべり落ちるという意味から。 | |
| シマサルスベリ | ミソハギ | サルスベリ | | 第2苗畑 | 9/5 | 林内や林縁に生育し、高さ20m。本年枝は4稜あり、葉は対生または互生。花は6～8月、枝先の円錐花序に白い花を多数つける。果実は7～10mmの楕円形で熟すと6裂する。 | |
| トネリコ | モクセイ | トネリコ | タモ | 苗畑 | 7/27 | 奇数羽状複葉、小葉は2～4対、長さ5～15cm。花は芽吹き時に咲き、花弁がなく茶色い雄しべが目立つ。稲を乾す稲架木として田のわきに植栽される。 | |
| タカサゴユリ | ユリ | ユリ | | 園内 | 8/15 | 花はテッポウユリより細長い形になり、乳白色で筒部の外側に赤いすじが入る。テッポウユリは赤いすじは入らない。花被片の先は強く反り返る。花粉は赤褐色、テッポウユリは黄色。 | |
| ネジバナ | ラン | ネジバナ | モジズリ | 管理事務所前 | 7/8 | 日当たりのよい草地や芝生に生える多年草。土中には白色で多肉の紡錘根がある。葉の間から高さ10～30cmの花径を出し、桃紅色の小さい花が多数つく。花茎は緑色で上部がねじれ、毛がある。 | |
| リョウブ | リョウブ | リョウブ | ハタツモリ | 学習展示館裏法面 苗畑前園路他 | 6/30 | 丘陵や山地の尾根、乾いた落葉樹林内に多く、高さ8～10m。樹皮は茶褐色で古くなると不規則な薄片になってはがれ落ち、まだら模様になる。花は6～8月に枝先から10～20cmの総状花序をだし、白い花を多数つける。 | |